

## 事務局だより

### 会議報告

令和2年10月1日より令和3年3月31日まで

#### ◆第23回理事会

第23回理事会は、国が発出した緊急事態宣言が3月7日まで延長されたことから、会議形式を取りやめ書面決議にて実施しました。

#### 決議事項…

- ① 令和2年4月1日至令和3年3月31日 事業年度に係る事業計画の変更の件
- ② 令和3年4月1日至令和4年3月31日 事業年度に係る事業計画及び収支予算の件
- ③ 資金調達及び設備投資の見込みの件
- ④ 会員規程変更の件

#### 報告事項…

- ① 役員退任の報告
- ② 職務執行の報告
- ③ 会員数の報告

※役員名簿は財団ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

#### 会員数報告（令和3年3月1日現在）

賛助会員	107件
団体・法人会員（特別・正）	87件
個人会員	1,116名
合計	1,310件

#### 個人年会費の変更について

昨年よりご報告申し上げております通り、令和3年4月から個人年会費は、一口3,000円に改定されます。同封の払込取扱票にてお振り込みされる際に留意ください。会員の皆様におかれましては、ご理解・協力のほど宜しくお願い申し上げます。

## 新入会員ご誘致のお願い

多くの方に世界遺産糸の森の環境保全と下鴨神社の文化財保護にご理解いただき、新入会員のご誘致にご協力をよろしくお願いいたします。糸の森財団ホームページの「入会申込フォーム」からお申込みいただけます。またご連絡いただければ「入会案内パンフレット」を郵送いたします。

## ご寄附のお願い

令和2年度も多くのご寄附をいただき、糸の森に関する数々の保存整備事業を実施することができました。心よりお礼申し上げます。令和3年度も引き続きご支援をよろしくお願いいたします。ご寄附は同封の振替用紙をご利用いただけますようお願い申し上げます。また「糸の森財団ホームページ」の寄付申込フォームからもお申込みいただけます。

## 下鴨神社だより

### ●令和3年

4月29日	市民植樹祭
5月3日	流鏝馬神事
5月12日	御蔭祭
5月15日	賀茂祭（葵祭）
6月12日	螢火の茶会
7月22日～8月1日	みたらし祭
8月6日	矢取神事
9月21日	名月管絃祭

各行事の開催有無については、下鴨神社のホームページにてご確認ください。

## 年会費に関するお知らせ

一昨年の消費税増税や昨今の事業経費の高騰などにより、糸の森財団の前身の「財団法人糸の森顕彰会」が発足した昭和57年当時から据え置き個人年会費の金額を、**令和3年度**より現行の2,000円から3,000円に変更させていただきますことになりました。会員の皆様方には、ご理解を賜り、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

## ニュース

### 寄附金に税額控除制度が適用されます

当財団は平成29年8月10日付で内閣府より税額控除に係る証明書を取得いたしました。これにより、個人の当財団への寄附金・会費について、領収書及び税額控除に係る証明書を添付の上、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、左に示す算式により算出された額が所得税額から控除されます。

$$\text{寄附金特別控除額} = \left[ \begin{array}{l} \text{その年中に支払った} \\ \text{公益社団法人等に対する} - 2,000\text{円} \\ \text{寄附金の額の合計額} \text{（※1）} \end{array} \right] \times 40\% \text{（※2）}$$

※1 「その年中に支払った公益社団法人等に対する寄附金の額の合計額」については、その年分の総所得金額等の40%相当額を限度とされます。  
 ※2 寄附金特別控除額は所得税額の25%相当額が限度となります。

## 糸の森 団報 糸の森 財団

令和3年3月31日発行  
通号71号

Vol.23

# 糸の森

糸の森ぶらりぶらり 第二十二回

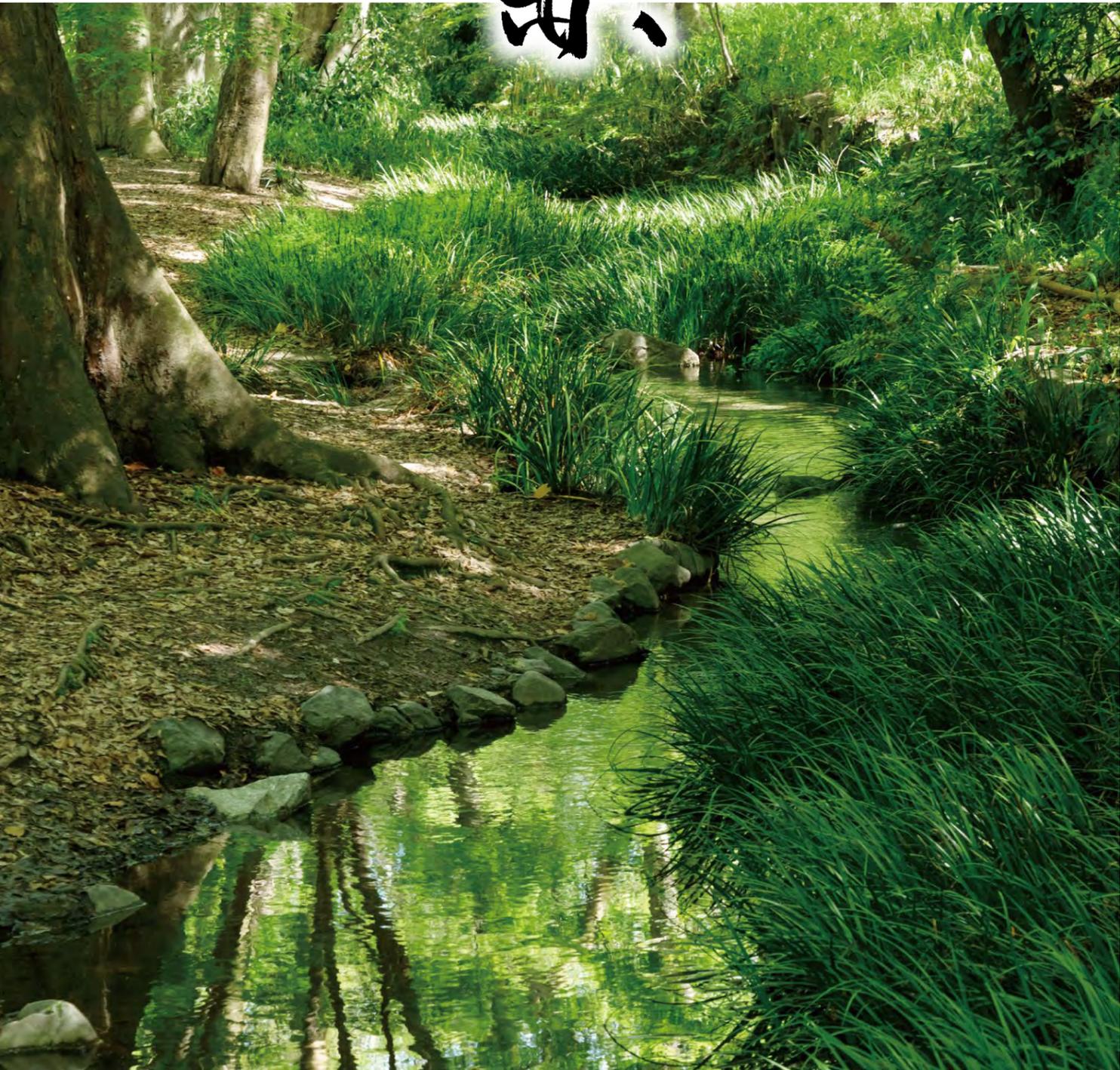
京都府市民の森

憩いの自然「糸の森」

糸の森NEWS／催事案内

葵と桂

表紙写真／中田 昭  
瀬見の小川



題字  
賀茂御祖神社  
新木直人宮司

糸の森

編集・発行

公益財団法人

世界遺産賀茂御祖神社境内糸の森保存会事務局

〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町59 賀茂御祖神社内 ☎075-781-0010

www.tadasunomori.or.jp



ごあらさし



糺の森財団

理事 加藤 好文

(京阪ホールディングス株式会社  
代表取締役会長 CEO 取締役会議長)

令和二年一月に初感染者が確認されて以来、今も猛威を振るうコロナ禍は同年四月からの第一回目の緊急事態宣言後、一旦収束したかに見えましたが、この冬には三回目の大きな波となりました。海の内こうからの疫病が瞬く間に広まる事態は、今も昔も同様でありました。

「続日本紀」に記録が残る大きな疫病として、遣唐使から九州にもたらされたとも言われる天然痘は、その後遠く奈良の都に広がっていきました。七三五年から七三七年にかけて猖獗を極め、朝廷の政務が滞り、国政を担っていた藤原氏四兄弟をも死に至らしめました。七三八年には一旦収束しますが、幕末に種痘と言われるワクチンが普及するまで、繰り返し流行しました。

江戸時代や明治時代には、二日コロリと恐れられたコレラが流行しました。また、A型インフルエンザとして知られているスペイン風邪は大正時代に、三回の流行の波があり収束まで二年を要し、日本人の死者だけでも四十万人近くに達しました。

どの疫病も一旦収束した再流行を繰り返す、どの時代の人々も皆が恐れ苦しめられてきました。政治、経済、文化の中心であった京の都では、皇族や貴族、庶民がこぞって賀茂の大神様に疫病退散や世の平穏無事の祈りを捧げたと思われま

ます。滾々と泉が湧き清らかな小川が流れ、涼風が吹きわたり緑の木々が茂る糺の森に、人々は足を踏み入れ神々や自然の偉大なる力を感じ、心身ともに束の間の癒しを得たのではないのでしょうか。糺の森は今も昔も、静かな中にも揺るがぬ凜とした佇まいで多くの参詣者を出迎え、全てのものを包み込んでくれます。

糺の森財団はこの古からの人々のあまたの祈りに満ちた大切な森を守るための保全活動に全力を尽くす所存です。この会報をお手に取っていただきました皆様、糺の森を守るための活動を一人でも多くの方に知っていただくため、お力添えを賜りたくお願いを申し上げます。次第です。

糺の森  
ぶらりぶらり  
第十画

# 京都府市民の森 憩いの自然「糺の森」

糺の森財団理事 荒巻 禎一

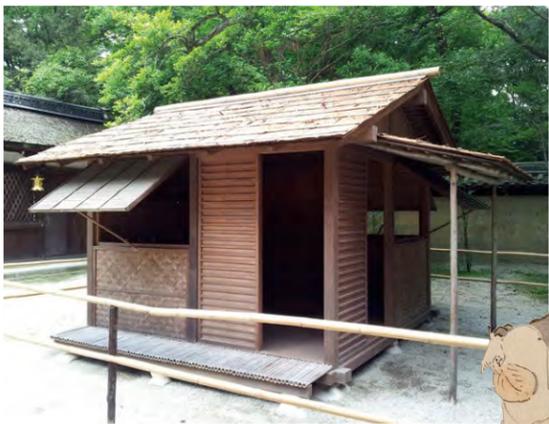
私と糺の森財団とのかわり、  
「里山」を提唱したことや有名な元  
京都府立大学学長の四手井綱英博  
士との縁が始まりでした。森林生  
態学の先駆者である博士は糺の森  
財団の学術顧問の立場から、糺の森  
を府市民の森を代表する森として、  
その保存に尽力されてきました。当  
時、京都府知事であった私は、神社  
仏閣をはじめとする文化財を内包  
する山紫水明の都は、京都だけの



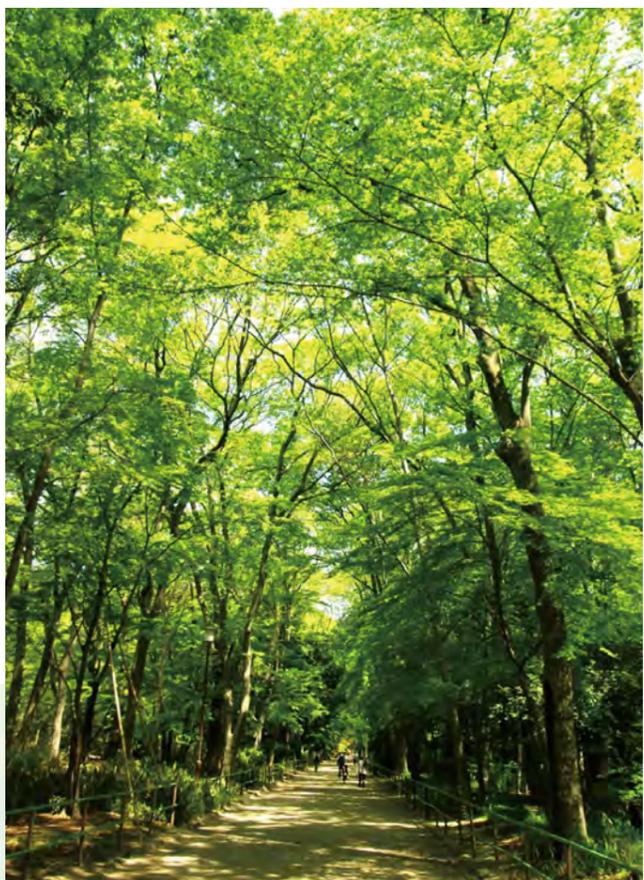
京区で糺の森の近くに住んでいたこともあって、初詣など折に触れて下鴨神社を参拝しています。以前に「胸張りて 吸う息すがし 神の森」との句を詠んだことがありますが、まっすぐに伸びる参道とそれを覆う樹林、遠くに見え隠れする朱の鳥居を望んで糺の森に足を踏み入れると、いつも気持ち落ち着き、気が満ちてくるのが実感できます。人間は森から出たサルだ、といわれていますが、この神域である森に入ると古からの血の記憶というか、血に潜む太古の記憶が呼び覚まされるような気持ちをするのは私だけではないと思います。

ところで、下鴨神社に関係する歴史上の人物に、三大随筆の一つ『方丈記』を著した鴨長明という人がいます。平安時代末期から鎌倉時代初期に生きた長明は下鴨神社の神職の家に生まれ、新古今和歌集などの勅撰集に和歌が入集されるなど、歌人として後鳥羽院に寵愛されました。長明が生きた十二世紀末から十三世紀初頭は、源平合戦という内乱を経て東国で鎌倉幕府が樹立

された激動の時代で、『方丈記』には大火災や竜巻、飢饉や大地震など多くの天変地異があったことが、ルポルタージュともいえる記述をもつてなされています。中でも養和元年（一一八一）からそのあくる年にかけて起きた養和の飢饉については、「次の年には飢饉から立ち直るだろうと思っていると、そればかりか疫病まで加わって、程度がよりいっそうひどくなった。」（※1）とあるように、京都を疫病が蔓延し、四万人以上の死者があつたとも書かれています。



のではなく全国民にとってかけがえない千年の都という思いから、「京都府緑と文化の基金」を創設しました。幸いにして、当時は財政状態も良かったこともあり、全国最大規模の百億円の基金を創設することができ、その第一号に「糺の森の保全整備事業」への助成を致しました。百万都市である京都の市街地に奇跡的に残され、神の森として信仰の対象となるとともに、府市民憩いの森として後世に引き継ぐべき森と判断されたからです。そのころの糺の森は、地下水位の低下から、瀬見の小川や奈良の小川の水は枯れ、森の乾燥化が問題になっていました。平成二年度にはじまった「糺の森の保全整備事業」によって、地下水利用のために井戸を掘削し、失われていたせせらぎは旧に復しました。また土壌の改良、樹木の調査や保護、また発掘調査を通じて古代の祭祀遺構も発見されました。以降、糺の森の保全整備事業は国庫補助事業として今日まで継続し、平安期流路の復元や、神宮寺跡の発掘調査、台風被害の復興などを含め、糺の森の保存



疫病はいつの時代も人々を悩ませますが、古来よりわが国では、人智の及ばない災害をかしこきものの仕事として、その禍事を鎮め退けるべく神に祈りを捧げてきました。そして自然の大きな力を神と崇め、祭祀を執り行ってきました。今、糺の森に鎮まる神々に疫病の鎮静化を祈り、先人の営みを顧みて原初の姿に学ぶことは意味があるろうと思います。世界遺産でもある糺の森の存在は、人と自然が共生することのでき

と活用に大きく貢献しています。さて、京都府や京都市の条例の前文などには、「京都は豊かな自然に恵まれており」とか「山紫水明と形容される優れた自然風景の中で」などと記されています。実際に比叡山に登り京都盆地を眺めてみると、たしかに右手に北山、手前に東山、奥に西山と三方を緑豊かな山に囲まれ、南に開いた古代都城制の立地として絶好の地形をしていることがよくわかります。ただ、緑地という観点で見ると、京都御所と二条城、そして鴨川と糺の森くらいしか目立った緑地がないことに改めて気付かされます。江戸時代の京都御所や二条城の地図をみれば、屋敷や町屋で埋め尽くされており、現在のような緑はもともと少なかったはずです。大都市京都にあって、平野部は開発される運命にありました。そのような中、糺の森が森として存在し続けたのは、平安京の守護神の鎮まれる社としての信仰の聖地であったからにはかなりません。

る証であり、そしてその歴史と文化がしっかりと現代に定着していること、それらを含め京都だけでなく日本全国、いや世界に誇るべく大きな宝であると確信しています。

※1「明るる年は立ち直るべきかと思ふほどに、あまりさへ疫病うちそひて、まささまにあとかたなし」『方丈記』

# 糺の森 NEWS

発行所 公益財団法人世界遺産賀茂御祖神社  
境内糺の森保存会事務局  
www.tadasunomori.or.jp

## 助成対象事業

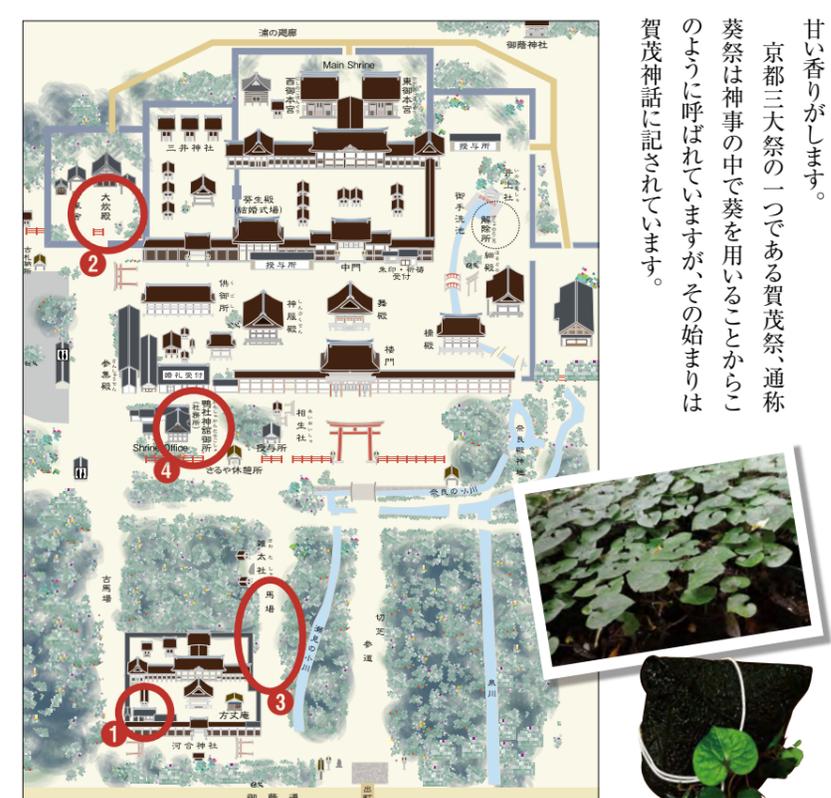
糺の森財団は令和2年度に実施した糺の森環境保全事業などに助成いたしました。

**助成総額 16,000,000円**

- 第2期糺の森整備工事(神宮寺跡整備工事)  
昭和初期まで存在した糺の森馬場西側の竜方池(河合神社北側、雑太社西面)の復元工事  
助成額 ..... 12,500,000円
- 御蔭祭保存事業  
日本最古の神幸列として古儀を継承する御蔭祭の保存事業  
助成額 ..... 2,000,000円
- 境内環境保全事業  
境内糺の森内及び周辺民家に隣接する境内境界に至る範囲の、参拝者や通行人の安全確保を目的とした、危険木伐採や枝打ち工事、並びに表参道、楼門内の砂補充敷き均し工事  
助成額 ..... 1,000,000円
- 流鏝馬神事の保存と騎射育成事業  
助成額 ..... 250,000円
- 世界遺産糺の森「葵の庭」整備工事  
助成額 ..... 250,000円

# 葵と桂

天に上られた賀茂別雷命(上賀茂神社御祭神)が、御祖神である祖父 賀茂建角身命、母 玉依媛命(下鴨神社 御祭神「柱」の夢に現れ、葵桂を飾り様々なお祭りをすれば必ず帰ってきます、と告げたこと)から、葵祭(賀茂祭)では葵桂を行列に加わる人々の装束や挿頭(頭の飾り)、牛車や神社の建物などいろいろな場所を飾りつけるために用いられています。



また桂はしばしば街路樹に利用されているため比較的簡単に見つけることができます。秋には黄色く紅葉しその落葉は甘い香りがします。

京都三大祭の一つである賀茂祭、通称葵祭は神事の中で葵を用いることからこのように呼ばれていますが、その始まりは賀茂神話に記されています。

下鴨神社境内で葵を見ることが出来る箇所は環境の変化によって現在では限られており、一番多く見ることのできる場所は①河合神社と②大炊殿(葵の庭)です。桂は糺の森の中に点々とその姿を見ることが出来ます。③馬場④神館御所

## 催事案内 遊び、学ぶ、糺の森のつどいあれこれ

### 糺の森コンサート「音の森」

**月日** 4月、5月、6月 各月ともに日程は未定  
**時間** 午後2時~午後3時(予定)  
**会場** 河合神社にて開催予定(糺の森南側) **参加** 無料(自由)

### 第30回 螢火の茶会

**月日** 6月12日(土)  
**時間** 午後4時(予定)~午後9時(閉門)  
**場所** 下鴨神社楼門内

明治の納涼茶席を再興した「螢火の茶会」です。裏千家淡交会によるお茶席と森に舞う螢をお楽しみください。重要文化財「神服殿」では箏曲や十二単姿の舞をご覧いただけます。なお、新型コロナウイルスの感染状況により中止になる場合がございますので、糺の森財団ホームページ、または糺の森財団事務局にお問い合わせください。

### 第31回 糺の森市民植樹祭

**月日** 4月29日(木祝) **時間** 午前10時~正午  
**会場** 糺の森馬場特設会場

山城原野の植生を今に残す「糺の森」を後世に伝えるため、毎年多くの方にご参加いただいています。

- 苗木植樹  
子供も大人もどなたでも参加いただけます。ケヤキ・ムクノキ・エノキ・カツラ・カエデの約50cmの苗木を糺の森に植樹していただけます。密を避けるため、4月29日午後の苗木植樹も受け付けます。お気軽にご参加ください。
- 成木植樹  
子供や孫の誕生、結婚周年などの記念に成木を植樹いただけます。献木成木の植樹は4月29日午後と4月30日も受け付けます。

**参加費** 1000円(1名) ※植樹用スコップと記念花鉢進呈  
**申込み** 当日9時半から会場受付テントにて(午後2時まで)

**参加方法**

- お茶席  
糺の森財団会員および招待者のみ参席可能。会員の方には5月下旬にご案内をいたしますので参席希望の方はお申込みください。
- 螢鑑賞(糺の森散策路)  
どなたでもご鑑賞いただけます。午後6時頃からお入りいただけますが、例年螢が舞うのは午後8時頃からです。

### 同時開催 「糺の森納涼市」

**時間** 午後1時~午後9時  
**場所** 楼門前  
日本酒・京菓子・京漬物・植木など老舗の名店約20店が出店いたします。

**献木料** 150,000円(樹齢10年未満 幹回り10~12cm・高さ3m位)  
300,000円(樹齢10~15年 幹回り20cm未満・高さ5m位)  
500,000円(樹齢15~20年 幹回り30cm以上・高さ7m位)

※上記は樹齢及び大きさの目安です。樹種によって異なる場合があります。樹種は、ケヤキ・ムクノキ・エノキ・カツラ・カエデからお選びいただけます。

**申込み** 下鴨神社内糺の森財団事務局  
TEL:075-781-0010 Mail: info@tadasunomori.or.jp  
**締め切り** 4月10日(土)

### 世界遺産糺の森文化講演会

**令和3年夏講座**  
**月日** 8月中旬(予定)  
**場所** 下鴨神社  
**参加** 無料(糺の森保存のための募金500円をお願い致します)

## 下鴨神社 京都学問所だより

下鴨神社京都学問所は、明治初年の神社制度改革に伴い廃止された「鴨社学問所」を、平成二十三年(二〇一一年)に「日本の伝統文化の保全と育成」に貢献することを目的に再興された教育・研究機関です。

平成二十四(二〇一二年)に「鴨長明『方丈記』」完成八〇〇年記念事業を開催し、その成果として、平成二十六(二〇一四年)年に「方丈記」八〇〇年記念「写真作品」・「歌とエッセイ」コンテストの受賞作品や各専門分野の先生方による「鴨長明『方丈記』」八〇〇年記念連続文化講座の講演録をまとめました。

『京都学問所紀要』創刊号を刊行しました。

それから、長らく時間があきましたが、この度、「京都学問所紀要」第二号を刊行させていただきました。何度か企画していましたが、テーマが第三十四回式年遷宮を中心とした御遷宮、鴨社資料館秀穂舎にて企画展を開催したボンビ博士や文久三年の孝明天皇の賀茂社行幸など、なかなか定まらなかったため、大幅に遅れての刊行となりました。第一号は、改めて、「鴨長明」の人物像をテーマとし「鴨長明の世界」と題して、各専門の先生方に執筆いただきました。

はじめに、当学問所理事で京都市歴史資料館館長である井上満郎先生に長明がいた平安時代後期から鎌倉時代初期の京都について解説していただきました。次に、長明が若かりし頃の出来事と周囲の環境について、特に「恋情」という新しい視点から、鴨長明研究の第一人者である成蹊大学名誉教授の浅見和彦先生にご執筆いただきました。続いて、当学問所常任理事で中世文学や和歌文学の研究者である京都産業大学教授の小林一彦先生に長明の著作である「無名抄」と遺した和歌からみる歌論・歌学について、執筆いただきました。さらに、説話文学の立場から中世における神

仏の信仰について研究されています花園大学名誉教授の新聞水緒先生に、長明の著作の一つである、仏教説話集の『発心集』に込められた「心」について、ご執筆いただきました。そして、当学問所顧問で下鴨神社の新任直人宮司が、長明が生まれ育った地域と鴨氏の系統について執筆しましたものを掲載しております。

「鴨長明」という人物に興味を抱かれている方やこの時代の様子を学びたいという方に向けての内容となっております。下鴨神社の西授与所・河合神社授与所・鴨社資料館秀穂舎にてお頒けしております。

また、河合神社内にあります河合神社・鴨長明資料館についても紹介いたします。河合神社西側にあります旧御料舎(明治時代初頭まで神饌の調進や祭儀の準備、遷宮の時は奉幣使の控えの間に用いられていました)が、河合神社・鴨長明資料館となっております。展示室の広さは七畳半一間という小ささですが、鴨長明に特化した資料館となっております。展示内容は梨木祐為「蓮胤法師鴨長明像」をはじめとする肖像画などの常設展示をしております。

その一角でミニ企画展として、年間を通したテーマ展示を開催しています。今年は「鴨長明と江戸時代」と題し、明暦の大火以降「方丈記」と長明は注目をされます。木版印刷の隆盛もあり、様々な「方丈記」が刷られていきます。なかには長明の名前に仮託した作品、すなわち偽書なども刊行されます。これらの版本を通して、江戸時代の人々が長明や「方丈記」などに對する思いを感じていただければ幸いです。

『京都学問所紀要』第二号 鴨長明の世界

なお、新型コロナウイルスの感染状況により、各行事を中止することがありますので、各催事とも詳しくは糺の森財団ホームページをご確認いただくか、糺の森財団事務局にお問い合わせください。

**☎075-781-0010**